

1. 研究活動

<p>「占領下公民館史研究序説 (14) — 制定時社会教育法における教育長に関する規定と J. M. ネルソンの役割—」</p>	<p>2014. 3. 28</p>	<p>『名古屋芸術大学研究紀要』第 35 巻</p>	<p>占領下日本において公民館などにかかわる教育委員会の教育長の権限に関する検討が社会教育法制定までさまざまに行なわれた。そうした動きに対し、GHQ/SCAP・CI & E 教育課成人教育担当官 J. M. ネルソンがどのような役割を果たして公民館など社会教育にかかわる教育委員会の教育長の権限を制定時社会教育法の条文に確定していったのを実証的に跡づけた研究。</p>
<p>「愛知軍政部月例報告翻訳」研究</p>	<p>未発表</p>	<p>未発表</p>	<p>共同研究者：新海英行、榎原博美、林恭子、村瀬桃子、石井拓児。 共同研究者で構成する占領期社会教育史研究会で翻訳研究発表を前提に、愛知軍政部が作成した 1946 年 8 月下旬からの Semi-Monthly Report 及び 1947 年 2 月からの Monthly-Report を含む軍政活動報告文書を月例の研究会で詳細翻訳検討している研究。</p>
<p>「民衆芸能教育の研究」(「子どもたちの自己表現を励ます教育実践の創造 (3)」)</p>	<p>未発表</p>	<p>未発表</p>	<p>2006 年度に愛知県の小学校で実施した「民衆芸能教育」を基礎に、全国で展開されている小中学校を中心とした和太鼓・民舞への取り組み(「民衆芸能教育」)で創出されている教育的価値を抽出する研究。毎年 7 月末に開催されている「名古屋市小中学校和太鼓・民舞フェスティバル」などを足がかりに、現在研究が進展中。</p>
<p>「障がい者社会教育の研究」</p>	<p>未発表</p>	<p>未発表</p>	<p>かつて 1996 年に名古屋市を事例として取り組まれた障がい児・者の教育に関する調査・実践研究を基礎に、彼らが生きいきとした地域生活を送るために必要としている地域学習文化活動や、それらを支える地域住民が必要とされている地域学習文化活動の実践創出の可能性と限界を明らかにする研究。重度心身障がい者通所施設「櫛の家」での実践検討と教育的価値創出の過程を中心として分析進展中。</p>
<p>「中等教育実践における教育方法に関する一考察 (2)」</p>	<p>未発表</p>	<p>未発表</p>	<p>2006 年 3 月に『社会教育研究年報』第 20 号に「—教育方法と教師の役割を考える教育実践の展望を核にして—」という副題で、その (1) にあたる研究を発表しており、その続編にあたる論考を現在執筆中。</p>
<p>「教育課程編成における教育内容の精選に関する一考察 (1)」(仮題)</p>	<p>未発表</p>	<p>未発表</p>	<p>「教育課程編成」すなわち教育内容計画の編成における当該教育内容に関しての「精選」の問題に焦点を当てた研究。現在講義担当している「教育課程論」における教材の「精選」の問題を取り上げ、さらにその教材の中から諸問題を分析的に抽出する試みを現在進行中。</p>

「教育課程編成における子ども・父母・地域住民・教師の協同に関する一考察(2)」	未発表	未発表	2007年に『名古屋芸術大学研究紀要』第28号において、「一教育課程政策の変遷と地域教育運動の創造を視野に入れながら」という副題で、その(1)にあたる研究を発表しており、その際には、教育課程政策の変遷の分析において1988年学習指導要領策定の分析までにとどまっていたが、その後の学習指導要領改訂の動向と実践展開を視野にいれた、その続編にあたる論考を現在執筆中。
---	-----	-----	--

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 教育方法論		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
学生の学習の自由を最大限に保障するために、感性と知性を十全に働かせて自由記述に近い課題（感想）文を書いている。その触発教材として「教育方法」を感受できる視聴覚教材を精選した上で活用しており、講義に主体的に参画できる工夫を行なっている。	視聴覚教材の精選されたもののほか、その参考資料として活字・写真等で示した各教材の参考プリントを必ず作成・配布して、より深い感受を導いている。また、基礎的・基本的なプリント学習用の教育方法論資料シリーズを作成・配布・検討しているほか、感受のより一層の促進のためのプリント資料も作成・配布・検討している。	
授業科目 教育課程論		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
学生の主体性を引き出すために、教育内容編成に学生の意向を反映させることができるように工夫しており、所感を書いてもらう折などに、講義内容に対する要望、意見、文句などを忌憚なく寄せてもらい、それらを柔軟に講義内容編成に反映させていくことを積極的に行なっている。	精選された視聴覚教材を準備するほか、学生の感受の契機となるような各教材の参考プリントも必ず作成・配布している。また、基礎資料として各種法令や学習指導要領に関するプリントを当然の如くに作成・配布・検討しているほか、感受性を刺激する韻文のプリント資料も作成・配布・検討している。	

3. 学会等および社会における主な活動

日本教育学会	1987～現在に至る	会員
日本社会教育学会	1985～現在に至る	会員
民俗芸能学会	2008～現在に至る	会員
日本教育法学会	1987～現在に至る	会員
日本公民館学会	2005～現在に至る	会員
社会教育推進全国協議会	1985～現在に至る	会員
愛知保育問題研究会	2008～現在に至る	会員
占領期社会教育史研究会		会員